

第 24 回（平成 30 年度 第 2 回）黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日 時 平成 30 年 8 月 7 日（火）14：00～
- 場 所 黒部市役所 2 階 201～203 会議室
- 出席者 協議会委員 18 名

委員等名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成 計画を作成しようと する市町村	黒部市長	大野 久芳	本人出席	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	中田 邦彦	本人出席	
		黒部市タクシー協会 あいの風とやま鉄道株式会社総務企画部長	神谷 尚機 助野 吉昭	本人出席 本人出席	
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所 黒部市長《再掲》	酒徳 鋼一	本人出席	
		関係する公安委員会	黒部警察署長	坂田 俊一	本人出席
第 6 条 第 2 項 第 3 号	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議会	能登 政雄	本人出席	
		黒部市民生委員児童委員協議会 特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会	田村 豊嗣	欠席	
		ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会 くろべ女性団体連絡協議会	村上 勝悦 新村 恵子	本人出席 本人出席	
		公募委員	中谷 靖子	欠席	
		政策支援 アドバイザー	東京大学大学院工学系研究科教授	原田 昇	本人出席
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	井藤 太亮	本人出席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	平山 一良	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	長谷川 僚一	欠席	
		富山県観光・交通・地域振興局 総合交通政策室次長 地域交通・新幹線政策課長	鈴木 邦夫	本人出席	
黒部商工会議所 一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局 Y K K 株式会社	黒部商工会議所会頭	川端 康夫	本人出席	座長	
	一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局代表理事	川端 康夫	事務局長 坂井 英次		
	Y K K 株式会社 執行役員 黒部事業所長	浅野 慎一	企画推進 グループ長 岡 智和		
富山県交通運輸産業労働組合協議会 宇奈月商工振興会	富山県交通運輸産業労働組合協議会 宇奈月商工振興会	石橋 剛 羽柴 進一	本人出席 本人出席		

- 事務局：黒部市都市建設部都市政策課：島津部長、山田理事、廣木課長、神保主幹、下坂係長、水島技師、大坂主事

会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 経過報告
- 4 協議事項
 - 議案第 4 号 南北循環線の一部改正について
 - 議案第 5 号 黒部市地域公共交通網形成計画の改訂について
 - 議案第 6 号 金太郎温泉線の廃止について
 - 議案第 7 号 平成 30 年度県・市町村統一ノーマイカー運動への市内路線バス等の参加について
- 5 報告事項
 - 報告第 4 号 無料公共自転車「ちょいのり黒部」の一時休止について
 - 報告第 5 号 池尻線の定員超過対策について
 - 報告第 6 号 親子でおでかけ事業について
- 6 その他
- 7 閉会

開会

定刻通り開会した

挨拶（大野市長）

- 市長より挨拶を行った。

みなさまこんにちは。

今年の日本列島は、地域によっては大変な豪雨に見舞われまして、今なお厳しい生活が余儀なくなされている状況でありますし、一方でまた、我々のような地域が猛暑、酷暑ということで、その対応に大変な日々の連続であります。そのような中で、第 24 回目となります、黒部市公共交通戦略推進協議会を開催いたしましたところ、委員の皆様方には、色々ご用事もあったろうとは思いますが、万難を排してご臨席を賜り、まず心から感謝と御礼を申し上げます。誠にありがとうございます。合わせて日ごろから、皆様方には、本市の公共交通の整備・運営にご理解ご協力を賜っておりますことに対しまして、改めて感謝を申し上げます。

すでにご存じの委員もおられるかと思いますが、少し手前味噌になるかもしれませんが、大変喜ばしいご報告がございます。去る 6 月 22 日に黒部市が政府から、コンパクト・プラス・ネットワークのモデル都市に選定されました。これは先進的でコンパクトなまちづくりを進めるにあたり、優れた取組を実施している都市を選定したものであり、今回黒部市を含む全国で 11 都市が選ばれ、富山県内の自治体では初めての選定となったところであります。

本市におきましては、地元民間企業と連携したまちづくりが評価されたものであります。その概要を簡単に申し上げますと、YKK のパッシブタウンや K タウンと言った整備などの取

り組みと連携した、街中への居住の推進、そして公共交通分野におきましては、YKK や運行事業者さんと連携協力し、全国的にも珍しい、社員の通勤を取り込んだ一般乗合バスである、南北循環線の運行で有りますとか、昨年8月に導入を致しました、無料公共自転車「ちょいのり黒部」の取り組みなどが評価のポイントになったところであります。南北循環線については、本格運行を開始して間もなく1年が経過しようとしております。この後皆様方にご審議頂きますが、まだまだ、解決すべき課題が多くありますが、持続可能な運行に向けて、引き続き皆様のご意見をお聞きしながら、知恵を絞ってまいりたいと考えております。

また一方「ちょいのり黒部」につきましては、その取り組みが評価されたのではあります。が、残念ながら一部利用者による悪質な利用が改善されないことから、今月1日から利用を一時的に休止しているところであります。その調整は後程事務局からご説明させていただきますが、運営や管理のあり方を改めて考えていく必要があるのではないかと認識を致しております。

それから本日の協議では、南北循環線の一部改正のほか、協議事項が3項目と、報告事項として、ちょいのり黒部の一時休止や、池尻線の定員超過対策についてご報告させていただきます。皆様には活発かつ有意義な協議会となりますよう、忌憚のないご意見を頂くことをお願い申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

経過報告

●事務局より、資料に基づき経過報告を行った。

○進行：廣木課長

ただいまの経過報告について、ご質問があればお願い致します。

特になし

○廣木課長

それでは、議事に移らせていただきます。

川端座長に進行をお願い致します。

協議事項

(1) 南北循環線の一部改正について

●事務局より資料1に基づき、南北循環線の一部改正について説明を行った。

○事務局より説明

○川端座長

何かご意見がある方はいるか。多くの部分にYKKが絡んでくるが、YKKの岡委員にYKKとして改正についてご意見をお願いしたいと思う。

○岡委員

事業所内の橋の架け替え工事により、南北循環線のルートを約1年間変更することになり、皆様にはご迷惑をお掛けします。南北循環線は、社会実験として始めた頃、社員の利便性を

高めることを目的として、夕方から夜に掛けて 30 分 1 本は運行すること、終業後 3 時間程度は帰宅用のバスを運行することを、運行内容に取り込んだ経緯もあり、今現在も夜遅くまで運行されている路線である。しかし、弊社の中でも働き方改革が進む中で、退勤帯の最後の辺りのバスを減便することはやむを得ないと考えている。また、路線バスが無くなったあと、YKK 専用のデマンド便を出すことは、路線バス利用者の増加に繋がらないと考えており、減便されてもデマンド便は出さない方針でいる。

○川端座長

ありがとうございました。YKK の理解を頂かないと進まない話なので伺ってみた。減便は赤字幅を縮小し、採算性を高めようとしている努力の現れであると思う。承認させて頂いてよろしいでしょうか。

（拍手にて承認）

○川端座長

それでは議案第 4 号を承認する。

（2）黒部市地域公共交通網形成計画の改訂について

●事務局より資料 2 に基づき、黒部市地域公共交通網形成計画の改訂について報告を行った。

○事務局より説明

○川端座長

地域公共交通網形成計画は、公共交通施策を進めていくうえで一番重要な部分である。皆様の意見を十分に出して頂きたいと思っている。

○原田委員

計画が前倒しで達成できたこと、新しい要素が入ってきたことを踏まえて積極的な目標を設定することは素晴らしいことである。全体的な方向としては非常に良いのではと思っている。施策については持続可能をキーワードとして、バス路線の再編やスクールバスとの統合を、実施する事業として盛り込んでおり同意ができる。

先ほどの、コンパクト・プラス・ネットワークの話の中であったように、都市機能の集約化がキーワードになってきている。黒部市において、5 つの公共施設を集約した、くろべ市民交流センターとは具体的にどのような施設なのかお聞きしたい。

○事務局

図書館を核として、子育て支援センター、公民館、働く婦人の家や会議スペースといった機能を備える複合施設で、市民会館の貸館事業も行う予定である。旧黒部市役所跡を利用して建設する計画となっている。

○川端座長

交流センターを中心に人を集め、それに公共交通を絡めていく取り組みだと思う。施設を作り、そこに人があつまる仕組みを設け、その時に公共交通を利用して行きましようと言うのが、大きなポイントかと思っている。他にご意見は。

○井藤委員

気になる箇所については事前に内容を伝え、反映して頂いているので、内容的には問題無い。改訂の手続きにおいては、この協議会による協議と、忘れがちであるがパブリックコメントの手続きが必要となるので、その点は留意していただきたい。

せっかくなので1点質問させて頂きたいと思う。経過報告の資料において、モビリティマネジメントの実施により、YKK社員約170人がバス通勤へ移行したとのことだが、どういった取り組みで実現させたのか。

○川端座長

岡委員、ぜひYKKの社員として、社内の取り組みをご紹介いただければと思う。

○岡委員

市内の社有社宅と社有寮の入居者の中で、まずはバスの運行時間帯に出勤している昼勤帯の勤務者に、市と弊社で連携して行っているこの取り組みについて説明し、マイカーで通勤することを禁止した。公共交通の利用手段がこれまで無かったが、手段が新しくできたということで、基本的には利用するよう促した。ただし、3交代制などで働いている勤務者については、公共交通を利用することが難しいので、自動車通勤の許可を出している。社有社宅や社有寮の社員について、バス通勤への第一ステップとして実施した状況である。

○原田委員

かなり思い切ったことをしたようだが、反対意見はあったのか。

○岡委員

当初ブーイングはあった。一方で、マイカー通勤に慣れていない都会から来た社員からは、特に冬場において、通勤が楽になったとの声も一部にはある。しかし、以前から車で通勤していた社員は、今でも不満を持っていると思う。

○川端座長

かなり思い切った取り組みだったと思う。社員寮にいる社員のみが対象ではなく、その他バス路線沿線に住む社員に対しても公共交通の利用促進を促して頂いている。他に意見はよろしいでしょうか。無いようなので、承認させて頂いてよろしいでしょうか。

(拍手にて承認)

（3）金太郎温泉線の廃止について

●事務局より資料 3 に基づき説明を行った。

○事務局より説明

○川端座長

以前、休日運行のみに変更した時と、バスを小型化した時に協議会において協議の場を設けた路線である。利用者が伸びなかった原因としては、片道運行であったことが考えられるが、代替路線も確保されている状況を見て、廃止の申し出に至ったと理解している。中田委員は何か考えがあるか。

○中田委員

特に無い。

○川端座長

他に議案第 6 号について、ご意見がある方はいるか。
ご意見無いようなので承認させて頂いてよろしいか。

（拍手にて承認）

（4）平成 30 年度県・市町村統一ノーマイカー運動への市内路線バス等の参加について

●事務局より資料 4 に基づき説明を行った。

○事務局より説明

○川端座長

何かご意見はあるか。

○鈴木委員

富山県として補足説明をさせていただく。平成 29 年度は参加者が増加し、ご参加した方々にお礼を申し上げる。以前は、乗車時に社員証や学生証を提示の上でエコパスを交付していたが、利用者から手続きが煩雑であるとか、駅員・バス運転手からも負担が大きいといった意見があったため、今年度は社員証や学生証は所持して頂いて、必要な時に提示頂くことにした。こういった形で利用者の利便性の向上や、駅員・バス運転手の負担軽減に努めた。

また事務局から紹介を頂いたが、とやまかがやきウォークとのタイアップを今後とも進めていき、利用者増加に努めて参りたいと思っている。

○川端座長

公共交通の利用促進にこの運動をつなげていければと思う。他にご意見無ければ拍手を。

（拍手にて承認）

報告事項**(1) 無料公共自転車「ちょいのり黒部」の一時休止について**

●事務局より、資料 5 に基づき報告を行った。

○事務局より説明

○川端座長

良い取り組みなので、今後もぜひ継続して欲しい。このような問題があると他にも波及があるので、一時休止はやむを得ないと思う。悪質利用について何か良いアイデアがあれば発言願いたいと思う。富山市のようにカードを作る方法もあると思うが、費用が掛かるので、負担が少ない中で良い方法があれば良いのだが。事務局にも調べて頂きたいが、他市町村で、参考になる管理をしていないか、皆様にも調べて頂きたいと思う。

○原田委員

鍵の施錠とはどういうことか。また、アパートで自転車が見つかったとのことだが、どういった経緯で発見されたのか。

○事務局

まず、鍵の施錠についてだが、鍵とは自転車そのものに当初から付いている鍵のことで、ステーションに戻した際に、施錠を掛けて鍵を持ち帰り私物化している事例が見られるということである。アパートで見つかった自転車については、市内でパトロールを行う中で見つかったもの。見つかったものについては回収している状況である。本来なら、パトロール等せずに、マナーを守って乗って頂きたいが、思わしくない状況が続いている状態である。

○原田委員

初めから鍵を外しておけば良いのでは。

○事務局

事務局のなかでも、色々と対応を検討しているなかで、鍵を外す案は出ている。

○原田委員

犯人が確認できるよう、防犯カメラを設置してみるのはいかがでしょうか。

○事務局

ちょいのり黒部については、市民のモラルを頼りにして始めた事業であるが、現実としてはこういった状況である。極力予算を掛けない形で対応できないかと考えている。仮に予算が確保できた場合は、防犯対策として GPS の導入を検討している。ただ、GPS の導入はすぐに行えるものではないと考えている。

○原田委員

GPS の機能にも、さじ加減はあるが、抑止効果に繋がり良い対策だと思う。ただ防犯カメラ

でも良いとは思うのだが。

○事務局

市内に防犯カメラは少なく、防犯カメラを導入することは、黒部市では難しいと考えている。

○川端座長

早めの再開を願っている。その他に意見や質問はないか。無いようなので、次の報告事項に移りたいと思う。

(2) 報告第 2 号 池尻線の定員超過対策について

●事務局より、資料 6 に基づき報告を行った。

○事務局より説明

○川端座長

この事項については、7 月 30 日の作業部会でも議論になった。様々な問題がある中で、利用者の利便性を損なわないために維持してくださっている状況である。意見があればお願いしたい。路線維持が大きな目的であり、第 22 回の法定協議会において小型化を決めたように、皆様からの了解を得ながら対策を進めている。利用者が増えて、嬉しい悲鳴ではあるが、対応には苦慮している。ただ、7 月以降は定員超過がないとは聞いている。

○神谷委員

我々は、石田三日市線において定員超過があった場合、自社のタクシーを呼ぶ等、自社で超過対応をしている。その場合、タクシー運賃は頂かず、バス運賃を頂くようにしている。そういった状況を考えると、再度富山地鉄へ依頼して、以前の大型バスで運行してはどうかと思う。

○川端座長

作業部会でも同様の意見はあった。ただ、定員オーバーしている人数が合計 11 名であり、この状況で再び大型のバスに戻すのは難しい気もするが。

○中田委員

狭い道が通れる等、小型車両にしたことでのメリットもある。大型バスでは路線が維持できないので小型車両にした経緯があり、たまにオーバーするからといって大型バスにすることは難しい。また、バス運転手の人員確保の面を考えると、全国的にみられる傾向だが、大型バスの運転手が確保しづらい状況である。そのため車両を小型化した側面もある。

8、9 人ほどの乗車で採算を取ることが、まず有り得ない話であり、車両の小型化は路線を維持するための苦肉の策であることをご理解して欲しい。

○神谷委員

石田三日市線では、以前は 30 人乗りのマイクロバスで運行していたが、15 人乗りのバスに変更した。バスを変更したことで 2、3 人乗れないときもあり、その場合タクシーを呼んで対応している。そういった場合の対応も考えて欲しいと思う。

○川端座長

池尻線はスクールバスと上手い組み合わせができないものか。

○事務局

統合の検討は進めている。もし統合が可能となれば車両の大型化も考えられる。ただ、現時点では、池尻線を残すことを目的とし、協議会の中で小型化を進めたこともあるので、第 22 回の法定協議会の議論を尊重しようと思う。また、富山地鉄については、池尻線における約 1/3 の赤字額の負担をしており、努力していることを理解して、この形で運行をしている。

この形が最良の策とは思っていないが、今現在対応できることはしていると思っているので、何卒ご理解頂きたいと思う。

○川端座長

神谷委員、なんとかご理解をいただきたいと思う。

○神谷委員

タクシー優待券の取り扱いも一つの問題点では。どういう扱いになっているのか。

○事務局

バスに乗れなかった利用者が、目的地に行きたい時間に合わせてタクシーを呼んで頂く形である。今はこの形で対応しているが、先ほども申し上げたように、これがベストな形だとは思っていない。何かしらご意見頂ければ、策を考えていきたいと思っている。

○川端座長

これが最終的な形ではなく、タクシー業界や利用者の利便性向上を含め、引き続き協議をして頂くと言うことでご理解できないか。

○神谷委員

了承した。

○川端座長

それでは池尻線の定員超過対策については、引き続き協議をするが、利用者に迷惑を掛けない形で今後も進めていくといったことでご理解いただきたいと思う。

もう 1 つ報告事項があるが、原田委員が 15 : 30 で退席されるので、最後に原田委員よりお言葉をいただこうと思う。

○原田委員

積極的で前向きな議論がされたと思っている。

私は東京大学の「活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム」に参加しており、長生きや健康の秘訣は、禁煙や痩せることよりも、気の合った仲間と話すこと、食事をするることであるとその場で聞いた。社会的ネットワークが長生きの秘訣であり、その社会的ネットワークを作るために、お出かけする場所をいかに作り、そうなったとき公共交通をどうするか。今後期待していきたいと思う。

○川端座長

ありがとうございました。次の資料説明を。

(3) 親子でおでかけ事業について

●事務局より、資料 7 に基づき報告を行った。

○事務局より説明

○川端座長

夏休みの事業なのでぜひ参加頂ければと思う。チラシはどこで配布されているのか。

○川端座長

小学校で配布されている。

○川端座長

他に何か質問はあるか。無いようなので、次に移りたいと思う。

その他**次世代型交通システム実証実験について**

○事務局

次世代型交通システムの構築について、前回の法定協議会で、今年度の交通まちづくり創生事業の計画の 1 つとしてご説明申し上げた。この実験について、今年度も改善を加えたいうえで実施を予定しているが、当初のシステムを開発した業者が、今後実験に参加できない旨を先月申し出てきた。

石田地区の自治進行会長から実験に協力頂けることのご返事を頂いた中で、このような状況となり、代わりの業者をこれまで探していたが、最近お引き受け頂ける業者が見つかった。今後、実験に向けて話を詰めていく段階である。本日、資料は無いが、今後も事業は確実に進めてまいりたいと考えている。どこかの段階で委員の皆様にはご説明差し上げたいと思っている。

○川端座長

何かご意見ありますでしょうか。無いようなので以上をもって、座長としての役割を終了させて頂く。

閉会（大野市長）

●市長より挨拶を行った。

それでは、閉会にあたりまして一度ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様方には活発で慎重な審議を賜りまして、誠にありがとうございました。特に川端座長さんには、円滑な議事進行を務めて頂き誠にありがとうございました。

今日の会議の冒頭でも触れさせて頂きましたが、本市が政府から、コンパクト・プラス・ネットワークのモデル都市に選定されたことは、大変に光栄なことでありますが、決してこれがゴールではなく、評価された取り組みをいかに今後活かしていくか、あるいは効率的に、持続的に取り組んでいくかということが、大きな課題だと考えているところであります。とくに南北循環線につきましても、まだまだ道半ばでございます。この路線が地方都市の地域交通モデルとして、全国に発信できるような路線に育て上げていきたいと考えておりますので、皆様方には引き続き、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げたいと存じます。

大変な残念ながら一時的でありにせよ、利用を休止せざるを得なくなりました、ちよいのり黒部につきましても、取組自体は非常に評価されているものでありまして、利用者からも好評でありました。したがって一日でも早く利用が再開できるように、皆様方のお知恵もお借りしながら、運営方法などについて考えてまいりたいと思っております。

このように相変わらず公共交通の利用者数は厳しいのが現状でございます。そういったことから、本日お集りの皆様方には、本協議会の委員として、また、それぞれのお立場から、本市公共交通の維持・発展に引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。閉会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

○事務局

以上を持ちまして、黒部市公共交通戦略推進協議会 第24回協議会を閉会する。

以 上